

【武雄小学校】

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語			算数		
	5年時	6年時		5年時	6年時	
		A	B		A	B
H24 入学 現5年	70.4 (1.07)	/	/	70.3 (1.05)	/	/
H23 入学 現6年	63.3 (1.02)	71.5 (0.98)	52.9 (0.93)	62.7 (0.96)	75.9 (0.98)	46.6 (1.01)
H28 正答率の全国比		(0.98)	(0.92)		(0.98)	(0.99)

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は、県平均を1としての比較。

◎「H28正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

○ 現5年生

- ・ 国語、算数ともに県平均を上回っており、平均点で見た場合おおむね良好な学力状況といえる。
- ・ 到達基準と比較した場合は、県が設定した国語の十分達成82.0点を1とすると本校は0.86、算数の十分達成81.4点を1とすると本校は0.86である。
- ・ 観点別正答率も、国語4観点、算数3観点の全てで県を上回っている。
- ・ 内容・領域別正答率では、国語の6領域中5領域で県を上回り、特に「書く」「読む」は高く、唯一「語句に関する知識」が県正答率より低い。算数は4領域とも県を上回っている。

○ 現6年生

- ・ 国語、算数ともに県平均・全国平均と同等もしくはやや下回っている。特に国語Bに関しては平均点がかなり低くなっている。
- ・ 5年時は、国語で県平均をやや上回っていたが今年度はやや下回り、逆に算数はいくらか向上している。算数Bはわずかではあるが県平均を上回った。
- ・ 到達基準と比較した場合は、県が設定した国語の十分達成78.4点を1とすると本校は0.83、算数の十分達成78.1点を1とすると本校は0.81である。
- ・ 観点別正答率では、国語の「話す・聞く」「書く」で県を上回ったが、「読む」「知識・理解・技能」ではわずかに下回り、算数は「考え方」「技能」「知識・理解」の3観点ともにやや下回っている。
- ・ 内容・領域別正答率では、国語の6領域中4領域で県を上回り、「書く」が高く「語句に関する知識」が低かった。算数では4領域中1領域が県と同じで3領域は下回り、特に「量と測定」「図形」領域は低かった。

○ 共通（意識調査）

- ・ 両学年ともに「自分の考えや意見を発表すること」を苦手としている児童が6割超で、県より多い。
- ・ 両学年ともに平日に1時間以上家庭学習をしている児童が8割弱で、県より2割弱多い。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- 西部型授業を常に意識して授業を実践する。教科や単元・題材による違いはあるにしても、児童自らが問題解決していく授業を全職員が念頭に置いて授業するように共通理解を図る。
- 授業の流れが分かる板書に努める。「1時間1面」を基本として、「めあて」から「まとめ」までの授業の過程を分かりやすく板書することに努め、それを家庭学習ノートにも利用させる。
- 「答えが出せればそれでいい。」ではないことを児童に意識させる。算数の「数と計算」領域では、立式の意味を常に考えさせ、それを言葉で表現させる。国語の読解では、文章の中のどの言葉からその答えが出てくるのかを考えさせる。
- 考えたことを「書く」「話す」ことで表現する機会を児童に日常的に与える。わずかなことでも日々の積み重ねで、少しずつ思考力や表現力が育まれるものである。「自分の考えや意見を発表すること」を苦手とする児童が少なくなるように授業を構築する。「継続は力なり」である。
- ペア学習やグループ学習を取り入れ、授業中に何らかの発言をする機会を全員に持たせる。
- 算数科を中心に、TT（1教室に2教師）や少人数指導にこれまで通り取り組む。個別の対応の機会を増やし、授業への意欲を高め、理解度を深める。
- ICT機器を利活用し、視覚や聴覚に訴えた授業を実践する。電子教科書やタブレットのアプリ利用で教材研究を効率的に行う。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- 家庭学習ノート
 - ・ 1年生から6年生まで、全児童が年間通して毎日家庭学習ノートにその日の学習内容の復習をする。（1年生は2学期から）
 - ・ ノートの回収・チェック・点検は級外職員が行う。6人の級外職員が6学年を分担する。
 - ・ 基本的なノートの使い方を年度初めに指導し、注意すべき点は担当級外がその都度指導する。
 - ・ 保護者にもサインという形で協力してもらい、家庭学習に対する関心を高めてもらう。参観日に、優良ノートを展示して参考にってもらう。
- 朝の時間の利用（木・金曜日）
 - ・ Shu-Chu 音読と国語タイム、Shu-Chu 計算と算数タイムを毎週木・金曜日に設定して、音読と計算の練習をさせたり、ドリルやプリントの問題を解かせたりする。
- 放課後の基礎・基本練習（月・木・金曜日）
 - ・ 下校指導後の16:00～16:30に、4・5・6年生は、基礎・基本の練習問題を解いて、学習内容の定着を図る。
- 町の老人クラブによる放課後学習会（水曜日）
 - ・ 3・4年生の希望者（45人）が水曜日の15:00～16:00に参加し、地区の老人クラブの皆さんに学習や読書の様子を見守ってもらう。
- 自己肯定感を高める取り組み
 - ・ 日頃から児童の良さを積極的に評価し、褒めて、自己肯定感を高める。
 - ・ 毎月、「心の健康アンケート」を実施し、児童玄関のモニターで児童が相互に見つけた「よいところ」「嬉しかったこと」を常掲する。

【御船が丘小学校】

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語			算数		
	5年時	6年時		5年時	6年時	
		A	B		A	B
H24 入学 現 5年	65.4 (0.99)	/	/	64.6 (0.96)	/	/
H23 入学 現 6年	68.3 (1.10)	74.4 (1.02)	62.6 (1.10)	66.2 (1.02)	77.0 (0.99)	49.1 (1.06)
H28 正答率の全国比		(1.02)	(1.08)		(0.99)	(1.04)

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は、県平均を1としての比較。

◎「H28正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

<生活習慣>

「朝食」については、「食べている」「どちらかと言えば食べている」と答えた6年生児童が91.7%(県95.1%)である。「睡眠」については、「寝る時刻が午後10時までに寝ている」5年生児童が67%(県61.1%)で、6年生では、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」児童が、79.6%(県79.7%)である。また、「毎日、同じくらいの時刻に起きている」6年生児童は92.6%(県90.6%)おり、規則正しい生活を送っていると言える。一方、平日(月から金)に、テレビ・ビデオ視聴を3時間以上している児童が5年生で26.7%、6年生で37.9%いる。また、ゲームを3時間以上している児童が5年で10.9%、6年生で6.5%おり、県平均より低いものの平日にゲームやテレビ・ビデオ視聴に多くの時間を費やしている。このことは、朝食の喫食や睡眠時間に影響を与えていると思われる。

<学習習慣>

授業以外で「2時間以上勉強している」児童が、平日で5年生は22%(県24.1%)、6年生は30.6%(県21.8%)である。土・日では5年生で11%(県9.9%)、6年生で13%(県9.1%)いる。「読書」については、学校が休みの日に本を読んだり借りたりする児童は、5年生で36.3%(県37.4%)、6年生で36.1%(県30.0%)いる。「宿題」をしている児童は5年生で98.9%(県95.5%)、6年生で100%(県96.4%)の児童が取り組んでいる。これらのことから、家庭の協力を得ながら、学校での自主学習の啓蒙やスマイル学習の取組などの成果が表れ、家庭学習の充実が進んでいると言える。

<授業での学び方>

「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていると思う。」と答えた児童で、5年生が87.9%(県89.5%)、6年生が95.4%(県92.2%)いる。「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている。」と答えたのは5年生が91.2%(県87.4%)、6年生が92.6%(県87%)いる。ノート指導を含めた学習指導は、児童に一定の定着が見られ、表現力の向上につながりつつある。さらに、今年度の校内研究である算数科を中心に、協働学習(グループ学習・全体学習)や学習のふり返りを書く活動を通して、児童一人一人の達成感を高めながら、思考力・表現力を育成していく必要がある。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

<取組>

1 スマイル学習による児童主体の協働学習の展開

3年生以上で実施していた算数、理科に加え、2年生以上に国語を追加し、タブレットを活用したスマイル学習（予習型の問題解決学習）に取り組ませ、学習への興味・関心を高めると同時に知識・理解の確実な習得を目指す。また、他教科でも児童が学習の主体となるように、話し合い活動を中心とした協働学習を展開していく。更に、他の人との考えの交流を通して、自分の考えを再構成させるなど、思考力・表現力の育成につなげていく。

2 学び方の徹底と児童の思考の流れが分かる授業づくりへの改善

西部型授業の学習過程について全職員で共通理解を行い、全学級で取り組むことを確認した。「めあて」と「まとめ」をきちんと行うことで学び方を身に付けさせていく。学習の内容と授業の流れが分かるように、全学年・全教科において、板書に授業の流れを示すカードを提示しながら学習を進めていくことを共通理解した。

3 言語活動の日常化を図ることによる思考力・表現力の向上

授業では、学習内容と児童の実態に応じて、協働学習（ペア・グループ・全体）を適宜取り入れ、言語活動の充実に取り組む。また、学習のふり返りの場面では、意識の変容が継続的に分かるようにするために、「ふり返りカード」を使い、学習内容の一層の定着を目指す。

自分の気持ちや考えを書かせる活動を行い、学習用語などのキーワードを使って書いているかを評価していくことで、知識・理解の定着と語彙力の向上を図る。また、日記などの家庭学習の課題(字数指定、キーワード指定、題名の工夫等)へと発展させていくことで、表現力の向上にもつなげていく。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

1 学力向上研修会、学力向上委員会の実施

夏季休業中に、全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査、標準学力検査の結果分析から、本校の課題を洗い出し、改善策について話し合う研修会を実施した。今後、学力向上委員会を中心に、全職員で以下の共通実践項目を定期的に確認し、学習習慣の定着や指導法の工夫・改善に努める。全校共通実践として、朝の時間の計算タイムの時間に Shu-Chu-Train に加え、基礎・基本に関する問題に取り組ませる。

2 学力向上タイムの実施

授業時間や放課後の時間を利用し、月に1回程度、4年生以上に学力向上タイムを設定する。この時間には、基礎・基本の問題だけでなく、活用問題にも取り組ませながら、思考力の向上に努める。また、条件つき作文や字数制限の問題にも取り組ませ、児童のつまづきに寄り添いながら、問題の解き方に慣れさせていく。

3 家庭学習の充実

月に1回「学習と生活のふり返り」のチェックを位置づけ、家庭と連携し学習習慣と生活習慣の定着を図る。また、より主体的な取組を促すために、学年掲示コーナーで自主学習を紹介し、意欲を高めていく。

【朝日小学校】

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語			算数		
	5年時	6年時		5年時	6年時	
		A	B		A	B
H24 入学 現 5年	63.5 (0.96)			62.1 (0.93)		
H23 入学 現 6年	60.4 (0.97)	69.7 (0.96)	54.9 (0.96)	64.1 (0.98)	72.1 (0.93)	44.3 (0.96)
H28 正答率の全国比		(0.96)	(0.95)		(0.93)	(0.94)

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は、県平均を1としての比較。

◎「H28 正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【学校全体の傾向】

- ・6年生は27年度の結果と比較して、県平均で国語、算数ともに若干の低下が見られる。
- ・28年度教科全体の正答率は、県正答率・全校正答率と比較して、国語・算数ともに下回っている。
- ・5、6年生ともに共通して記述式の問題において無回答率が高く、ここは本校の最大の課題である。

【国語に関して】

- ・5年国語では、漢字の読み書きなどの基本的な知識・理解・技能は県平均を上回っている。
- ・5年国語の短答式の問題の正答率は県平均を上回っているが、算数では下回っている。特に記述式になると正答率は県平均を国語で7ポイント以上、算数で5ポイント以上下回っている。
- ・6年国語では、「読む能力」は県平均を上回っているが、「話す・聞く」に関しては県平均を下回っている。

【算数に関して】

- ・算数に関しては5年、6年A問題ともに県・全国比が0.93程度であり、かなりの落ち込みが見られる。
- ・6年算数では、「数量や図形についての知識理解」は県平均を上回っているが、「数量や図形についての技能」は5ポイント程度落ち込みが見られる。

【意識調査に関して】

- ・意識調査では、学習意欲は低いわけではないことが分かる。特に学習したことが将来役に立つと考えている児童の割合は高い。
- ・「友だちの前で自分の考えを言える」「友だちの考えを最後まで聞ける」と答えた児童の割合が県平均に比べて10ポイントほど少ない。
- ・1日の学習時間が県平均に比べて少ない児童の割合が多い。

2 改善に向けた具体的な取組

(1)授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

・学習においては「めあて」「まとめ」「振り返り」の流れで学習を進めることが定着している。しかし、学習の進め方のとらえ方に教師と児童の意識のずれが見受けられる。そのため、特に「まとめ」「振り返り」は、教師が一方的に与えるのではなく、学習の流れ中で、教師と児童がともに作り上げていくというスタンスで進めていくようにする。

・算数科では、自力解決で自分の考えを書き表したり、学び合いで自分の考えを相手に伝えたりする表現力に関しては個人差が大きく、本校の課題である。自力解決では、全員が自分の考えを持つことができることを目指し、導入や見通しを工夫していく。

・学び合い活動の充実を図る。自分の考えが間違っても安心して述べられるようにクラスの支持的風土を作りながら進めていく。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

・家庭学習で毎日の宿題に出す「漢字」「計算」「音読」の提出率はおおむね良好であるので、今後も声かけを行い、提出率 100%を目指す。

・自主学習として、その日に学習したノートの視写を宿題に出しているが、提出率が高い。また地域の支援員の方にノートの丸つけをしてもらっていることは、児童の意欲を高め基礎学力の向上を図る上で効果が見られている。しかし、内容的にとっても工夫をしている児童もいれば、十分とは言えない児童もおり、内容の充実が課題である。そこで、自主学習として取り組んでいるノートの視写は、名称を「家庭学習ノート」に変更し、授業ノートを試写させることを全職員で再確認し、内容の充実を図っていく。教員は日々充実した板書を心がける。

・読書に関しては、関心が高い児童が多く、今の状況を維持していく。しかし、読書の習慣がついていない児童もいるため、習慣化を目指して読書を宿題に出し、保護者に協力を求めていく。

・朝登校した後は静かに読書をして過ごす習慣をつけさせていく。

・条件作文など過去の調査問題を活用した授業を行う期間を設定し集中的に取り組ませることで、条件に合わせた回答の仕方について指導する。

・家庭学習時間が、国や県平均と比べて少ないので、「家庭学習の手引き」を保護者に配布したり、啓発を図る通信を出したりするとともに、子ども達にも指導し、家庭学習の大切さを伝え家庭学習の時間を増やす。

【若木小学校】

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語			算数		
	5年時	6年時		5年時	6年時	
		A	B		A	B
H24 入学 現 5年	62.3 (0.94)	/	/	71.4 (1.06)	/	/
H23 入学 現 6年	62.3 (1.0)	83.3 (1.15)	73.6 (1.29)	74.0 (1.13)	83.9 (1.08)	48.9 (1.06)
H28 正答率の全国比		(1.14)	(1.27)		(1.08)	(1.04)

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は、県平均を1としての比較。

◎「H28 正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

1 学習状況調査の結果から

6年生の全国学習状況調査の結果では、国語科と算数科のA問題（主として知識）B問題（主として活用）とも県平均や全国平均を超えている。特に、国語科においては、県平均、全国平均を大きく超え、B問題でも高い数値を示していた。一方算数科では、県平均や全国平均は超えているものの、各問題においては県平均を下回るものもいくつかあった。「割合の基準量と比較量の関係を理解する」「示されている説明を解釈し、その考えを別の場面に適用し説明する」「単位量当たりの計算で、必要な情報を特定する」等であった。

問題に対する無解答率は、国語科、算数科ともに低く、難しい問題であっても自分なりの考えを書こうという態度が日頃より培われている。

5年生の県学習状況調査の結果では、算数科では県平均を若干超えているものの、国語科では県平均を下回っていた。国語科の観点別に見ると「読む」「書く」の観点については、県よりも高い数値となっているが、「話す・聞く」「知識・理解・技能」が県よりも低い結果となっていた。話の中心に気をつけて聞いたり、分からない点や確かめたい点を質問したりすることや漢字やローマ字の読み書き、慣用句の意味や国語辞典の使い方についての理解がやや不足している。

2 意識調査の結果から

意識調査の結果では、県平均に比べ「決まった時刻に起きる、寝る」「朝食を食べる」等が高かった。また、テレビ視聴時間や、インターネット使用時間が短く、家庭での良い基本的生活習慣が身につけていることが分かる。

学習については、平日の家庭での学習時間は県と比べあまり変わらないが、土日に塾に通っている児童の割合が低く、土日の学習時間は短くなっている。しかし、読書の時間については、平日、休日ともに県よりも長く、読書によく取り組んでいると言える。

国語科・算数科に対して「好き」と答える児童が昨年より増えている。また「失敗を恐れず、何事にも挑戦する」や「自分には良いところがある」についても昨年より増加し、学習に対する興味や意欲面が向上し、自己肯定感も増していることがうかがえる。

2 改善に向けた具体的な取組

(1)授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- 1 「西部型授業」を基本にしながら、主体的な問題解決学習（アクティブラーニング）に取り組ませる。それにより、学ぶ楽しさ、できる喜びを味わわせ、学習に対する理解と意欲を高める。
特に次の点について重点的に取り組む。
① 「めあて」の提示 ②ノート指導・ワークシートの工夫（書く場の保障） ④話し合い活動 ⑤学習の「まとめ」
書く場を保障し、図、言葉、式、文章など多様な表現方法で自分の考えを表し、自分の考えをしっかりと持たせる。さらにグループや全体で考えを高め合う言語活動（協働的な学び）を充実させることで、表現力、判断力、思考力を育成する。また、学習のめあてを確実に提示し、授業の最後に「まとめ」活動を取り入れ、学習したことの定着を図る。
- 2 学習の展開や、発問・板書等の工夫をし、授業に臨む。
【国語科】・・・単元のねらいを明確にした指導。単元に設定されている言語活動を確実に実施する。
学習用語の習得と活用を図り、国語科における基礎・基本の力を身につけさせる。
【算数科】・・・「わかる」と「できる」をしっかりとつなげていく。答えを出すまでの過程を大切にす。
既習事項を活用した自力解決力を大切にし、活用力を高める。
【理科】・・・自然体験や、実験・観察などの直接体験を重視した授業を行う。また、言語活動との連携を図り、学習したことを新聞等にまとめる表現活動を取り入れる。
- 3 ICT 機器の効果的な利活用を通して、分かりやすい授業作りに努める。
・デジタル教科書、タブレット PC の利用率を高める。
- 4 学んだ事を活用する場を作り出し、活用力を高める。
・総合的な学習の中で、国語科や算数科で培った技能を意図的計画的に活用させる。（グラフや図表の活用、手紙、新聞、チラシ等目的に応じた文章表現を取り入れさせる。）
・パワーアップタイム・・・余剰の時間を利用し、活用力の向上に向けた練習の時間を設定する。
(4・5・6年生)

(2)（授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

- 1 家庭学習の習慣化や内容の充実を家庭と連携して取り組む。
①課題（読み、書き、計算）について職員間で共通理解を図る。
②日記など多様な書く活動の場を設定し、充実を図る。
③自主学習の奨励（週1回以上の取組）をする。
④タブレット（スマイル学習・eライブラリ）を利活用する。
- 2 学習のルールについて職員が共通理解し、学習への心構えや物構えについて全校で一貫した学業指導を行う。（チャイムの合図。筆箱の中味、姿勢、話型、聴型）
- 3 早寝、早起き、朝ご飯などの生活習慣を定期的にチェックし、よりよい生活習慣を身に付けさせる。

【武内小学校】

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語			算数		
	5年時	6年時		5年時	6年時	
		A	B		A	B
H24 入学 現 5 年	68.3 (1.03)			66.6 (0.99)		
H23 入学 現 6 年	65.8 (1.06)	67.9 (0.94)	61.3 (1.08)	61.8 (0.95)	74.6 (0.96)	48.1 (1.04)
H28 正答率の全国比		(0.93)	(1.06)		(0.96)	(1.02)

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は、県平均を1としての比較。

◎「H28 正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

○5年は、県が示す「おおむね達成」を上回っているが、算数は県平均とほぼ同等である。国語においては、書く領域は、県が示す「十分達成」にほぼ到達できていて、記述式の問題や活用に関する問題の正答率が高く、指導の成果が表れている。一方、読む領域は「おおむね達成」に達していない。特に詩の読み取りや漢字の読みに課題が残った。算数においては、量と測定、図形の領域に課題が残った。小数の計算も苦手さを感じている。一方で、整数のわり算や概数の正答率は、ほぼ9割と高く、花まるタイムの効果だと考えられる。

○6年は、国語A・算数Aは、全国平均を下回っているが、国語B・算数Bは、全国平均を上回っている。選択問題より記述式の問題の正答率が高い。

国語においては、領域別に見ると、A・Bともに「話すこと・聞くこと」が、Bは「書くこと」が全国平均を上回っており、目的や意図に応じて書く事柄を整理したり、収集した情報を関係づけながら話し合ったり、話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問する力に伸びが見られる。また、目的や意図に応じて、分かったことや自分の考えを書く力にも伸びが見られる。一方、「知識・理解・技能」と「読むこと」に、課題が見られる。漢字やローマ字の読み書き、複数の資料を比較しながら読むことの正答率が低く、ローマ字においては無解答率も高い。

算数Aでは、小数の計算や割合に関する問題の理解が低い。算数Bでは、式や式の中の数値の意味を解釈することに課題が残った。領域別に見ると、「考え方」が「おおむね達成」に到達できず、課題が見られる。

○意識調査では、5・6年ともに、ほぼ9割以上の児童が「学校に行くのは楽しい」「友達に会うのは楽しい」と答えている。また、将来の夢や目標を持っていると答えた児童も9割を超えている。地域の行事に参加している児童もほぼ100%に近い。これらの質問項目は、どの項目も昨年度より伸びが見られ、県平均も上回っているよい結果であった。

反面、宿題は100%の児童ができているが、テレビやビデオ・DVD等の視聴時間が県・全国に比べ多く、反面、予習・復習・読書などの家庭での学習時間が少ない傾向にあり、課題が残った。

2 改善に向けた具体的な取組

(1)授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- 1 全ての教科領域において、1時間の授業の中で児童にどんな力をつけなければならないのか指導目標を明確にし、めあてとまとめを大切にしたり分かりやすい授業を行う。また、ノート指導にも力を入れる。学習内容を復習しやすく、自分の考えの深まりや広がり、変容が分かるノートになるよう指導する。
- 2 全職員共通理解のもと、協働的に問題を解決する力の育成に重点を置いた授業を行う。普段の授業の中で、「ICT機器の利活用」と「教師の働きかけ」に視点をおいて「友だちタイム」を充実させるなど指導を工夫し、分かりやすい授業を引き続き行っていく。「考えたことを図・式・数字・ことばで分かりやすく書く」「理由や根拠を明確に視点に沿って分かりやすく説明する」活動を取り入れ、思考力を養うことを意識した指導を徹底、継続して行う。
- 3 授業の始めの5分を「定着タイム」とし、児童が苦手としている内容や既習事項の反復学習の時間を設け、基礎的・基本的な知識の定着を図る。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- 1 全校放送に合わせて立腰を実施したり、学習の規律を徹底させたりして、落ち着いた雰囲気の中で学習できるように、環境づくりに努める。
- 2 朝の時間に、全校統一して「花まるタイム」を設定し、全力で取り組ませることで、学習の基盤となる集中力や言語力、計算力、空間認識力等の向上を図る。
- 3 家庭学習については、全職員で共通理解を図り、発達段階に応じた学習時間を確保させる。内容や量については、ICT機器やドリル、プリント等を活用し、個別に補充指導をとりながら、基礎的・基本的な知識の定着を図る。調査の設問別到達状況において習得できていない内容や児童が苦手としている内容についても、日頃から繰り返し復習させていく。
また、現在取り組んでいる思考力向上をねらった週末課題については、基礎・基本の復習問題を加えるなど、内容の改善を図り、発展的な学習と基礎・基本の両面からの習得をねらった取り組みを実施する。
- 4 ローマ字や漢字については、端末へのローマ字入力やミニテスト等の学習端末での実施により定着を図る。
- 5 児童に、今回の調査結果に見られる成果と課題を知らせ、学力向上に向けて、今後どんなことに気を付けて学習に取り組めばよいか、自分たちの言葉で振り返りをさせる。

【西川登小学校】

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語			算数		
	5年時	6年時		5年時	6年時	
		A	B		A	B
H24 入学 現 5年	66.7 (1.01)			65.8 (0.98)		
H23 入学 現 6年	71.8 (1.15)	78.4 (1.08)	55.3 (0.97)	60.3 (0.92)	82.4 (1.06)	47.5 (1.03)
H28 正答率の全国比		(1.08)	(0.96)		(1.06)	(1.01)

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は、県平均を1としての比較。

◎「H28 正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- 5年生の正答率は国語、算数共に県平均並であった。課題が見られた内容・領域は以下の通りである。
 - ・国語「読む」「語句の関する知識」
 - ・算数「量と測定」
- 6年生の正答率は国語 AB、算数 AB で県、全国平均並であった。5年時と比べると算数の正答率が伸びている。
- 平日、授業以外の1日の勉強時間が県、全国の平均値より長かった。
 - 1日2～3時間 西川登小 47.1%、佐賀県 14.2%、全国 14.7%
 - 1～2時間 西川登小 41.2%、佐賀県 38.9%、全国 37.0%
 - ただし3時間以上は西川登小 0%、佐賀県 7.6%、全国 10.8%
- 自分で計画を立てて家庭学習に取り組んでいる児童が多い。(している 47.1%、どちらかといえばしている 41.2%)
- 家庭で予習、復習に取り組んでいる児童が多かった。(している、どちらかといえば、しているの割合)
 - 予習(西川登小 82.3%、佐賀県 39.6%、全国 43.3%)
 - 復習(西川登小 100%、佐賀県 52.2%、全国 55.2%)
- 授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることを難しいと思う児童が多かった。
 - そう思うの割合・・・西川登小 52.9%、佐賀県 27.1%、全国 23.9%
 - どちらかといえば、そう思う・・・西川登小 29.4%、佐賀県 32.2%、全国 30.9%

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- 「自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりする」ことに対する苦手意識を改善するために、授業の中に意図的にグループでの話し合い活動を仕組む。このことでできるだけ多くの児童が発表する機会を設け、少人数での発表から学級全体の前で発表へとつなげていく。また、発表する前に、自分の考えをまとめ、書く活動を取り入れていく。
- 書く力を高めるために、書きやすい話題を提示したり作文の型を指導したりして書き慣れさせていく。また、毎日の日記の記述に条件を付け書かせたり文章を推敲したりするように指導していく。
- 算数の文章問題を解くことに課題がみられたので、授業の中で問題の解き方を友だちと話し合わせたり、自分の考えを発表させたりする。
- 校内研究と関連させて、授業の学習スタイルを校内での統一を図る。板書（日付、めあて、まとめ、ふりかえり）の書き方、ノートを使い方、発表の仕方、発表の聞き方

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- 学習内容の基礎・基本の定着のために、朝の学習の時間に現在学習している内容や、前学年までの学習内容の復習に取り組ませる。
- タブレット端末を使って、集中力を高めるための問題に取り組ませる。
- 読む力を高めるために、日々の音読に力を入れる。そのため、家庭との連携を図り、家庭学習の音読を徹底させる。
- 電子黒板やタブレット端末などの ICT 機器を積極的に取り入れていき、児童の学習意欲を喚起し、学習内容の理解度を高めていく。
- 学校と家庭とが連携して児童の学力向上に取り組むために次のことを行う。
 - ・家庭学習の手引きを見直し、各家庭に配布する。 学習の時間（目安）、自主学習の例
 - ・自主学習の内容充実のために年に 2 回、授業参観など保護者が来校される時期にノート展を実施する。

【東川登小学校】

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語			算数		
	5年時	6年時		5年時	6年時	
		A	B		A	B
H24 入学 現5年	63.6 (0.96)			56.8 (0.85)		
H23 入学 現6年	70.8 (1.14)	80.4 (1.11)	67.6 (1.19)	78.6 (1.21)	82.0 (1.06)	48.9 (1.06)
H28 正答率の全国比		(1.10)	(1.17)		(1.06)	(1.04)

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は、県平均を1としての比較。

◎「H28 正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- 1 意識調査の結果から基本的には、県全体が示す数値とあまり変わらないが、家庭での過ごし方に若干の差異がある。学習塾に通っている児童は少なく、テレビやゲーム、インターネットなどパソコン使用の時間も少ない傾向にあり、スマートフォンの所持率は低い。地域行事には積極的に参加している。
- 2 ほとんどの児童が学校に行くのを楽しんでいると感じており、友だちに会うのを楽しんでいる。高い自己肯定感をもち、将来の夢を持つことができている。地域に貢献し、人の気持ちが分かり、人の役に立つ大人になりたいと願っている。
- 3 5年生は、国語・算数ともに県平均を下回っている。観点・領域別に見て、漢字の読み書きが県平均を上回り、到達基準の「十分達成」に到達している。
- 4 6年生は、国語・算数ともに全国平均を上回っている。観点・領域別に見ても全ての項目で上回っている。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- 全国学力・学習状況調査と標準学力検査の分析を行い、本校の全体的な課題として、論理の展開や前後の文脈を理解する力や、「問題で何を問われているのか。」「どういう条件が提示されているか。」ということを読み取る力があげられた。これらの力を伸ばすために次の4点を重点取組とした。
- 1 まずは基礎基本の学力定着が必要である。全学年を通し、これまで以上に基礎基本の学力を伸ばすようにする。できる限りTT指導体制を取り、単元や児童の実態によっては習熟度別少人数授業形態を取る。また、児童が自ら授業内容を振り返ることのできるようなノート作りを心がけていく。
 - 2 西部型授業を常に念頭に置き、1単位時間の授業を大切にする。課題の設定、結果の予測や対話を取り入れた集団での学習、実験・観察・計算、技能の定着、まとめ・振り返りの一連の流れを教職員全員が共通理解し、1単位時間のねらいを確実に達成する。
 - 3 表現力の向上を図る。アクティブ・ラーニングの視点に基づき、国語科・算数科では勿論、それ以外の授業でもできるだけ「二人でタイム」や「みんなでタイム」等の時間を設ける。具体的操作等も織り交ぜながら、教科に関する用語を使って意見交流を行い、説明する力をつけるようにする。同時に、聞き取る力もつけるようにする。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- 全国学力・学習状況調査と標準学力検査の分析を行い、本校の全体的な課題として、論理の展開や前後の文脈を理解する力や、「問題で何を問われているのか。」「どういう条件が提示されているか。」ということを読み取る力があげられた。これらの力を伸ばすために次の4点を重点取組とした。
- 1 まずは基礎基本の学力定着が必要である。全学年を通し、これまで以上に基礎基本の学力を伸ばすようにする。できる限りT指導体制を取り、単元や児童の実態によっては習熟度別少人数授業形態を取る。また、児童が自ら授業内容を振り返ることのできるようなノート作りを心がけていく。
- 2 西部型授業を常に念頭に置き、1単位時間の授業を大切にす。課題の設定、結果の予測や対話を取り入れた集団での学習、実験・観察・計算、技能の定着、まとめ・振り返りの一連の流れを教職員全員が共通理解し、1単位時間のねらいを確実に達成する。
- 3 表現力の向上を図る。アクティブ・ラーニングの視点に基づき、国語科・算数科では勿論、それ以外の授業でもできるだけ「二人でタイム」や「みんなでタイム」等の時間を設ける。具体的操作等も織り交ぜながら、教科に関する用語を使って意見交流を行い、説明する力をつけるようにする。同時に、聞き取る力もつけるようにする。
- 4 官民一体型学校の特色を生かし、花まる学習会の教材である「なぞペー授業」により、思考力を養う。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- 家庭学習の出し方を工夫する。
 - ・基礎基本の定着に必要な課題に加えて、以前の学習内容を思い出させるような課題や、その日に学習した内容を図等も加えて日記風にまとめる課題等様々な力がつく課題を出す。個に応じた課題も用意する。
 - ・プリントの宿題等は、できるだけ早く添削し、できなかった課題をそのままにせず、やり直しをさせる。
 - ・保護者と連携し、家庭での学習習慣の定着を図る。
- 花まるタイムの充実を図る。

「音読」「立体・平面パズル」「基礎計算」「書き写し」の4活動を通して、「個」の力を高める。音読では、日本語の響のよさ、俳句や漢詩など伝統的な文化に触れさせ、語感を育てる。パズルでは、立体の裏側や補助線を見抜く感覚を育てる。計算では、その学年で学習する計算力を伸ばす。書き写しでは、速く正しく写し取る学習を行う中で、書く力を身につけさせるとともに様々な日本語の表現にふれさせることで、言語力の向上を図る。
- 青空教室に取り組みさせる。

体を動かし、五感を使い、座学では体験できない発見や気づきを得る活動を通して、「自ら課題を解決する力」「生きる力」を育てる。
- 校内環境の整備・充実を図る。
 - ・「国語コーナー」「算数コーナー」を設け、クイズを出したり、秀逸のノートを紹介したりして、意欲の向上につなげる。
- 学校生活の安定を図る。
 - ・「学力向上は学校生活の安定から」という共通認識のもと、毎週1回行っている教育相談連絡会で、全職員が児童の現況や気になる児童の状況を把握し、児童の学校生活を見守る。

【橋小学校】

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語			算数		
	5年時	6年時		5年時	6年時	
		A	B		A	B
H24 入学 現 5年	70.1 (1.06)			70.1 (1.04)		
H23 入学 現 6年	60.2 (0.97)	67.6 (0.93)	52.0 (0.91)	65.0 (1.00)	74.2 (0.96)	42.1 (0.91)
H28 正答率の全国比		(0.93)	(0.90)		(0.96)	(0.89)

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は、県平均を1としての比較。

◎「H28正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【学習状況調査】

・国語科では、「漢字を正しく読む、書く」「インタビューしたメモがどのように工夫されているか」「発言を受けて、どのような質問をしていくか」「結果を基に、成果をまとめる」ことの本答率が低い。漢字の書き取りのくり返し学習など、基礎基本の学習の定着が必要とされる。また、インタビューの内容から意味を捉えさせ、質問することを整理させること、結果を基に、分かったことをまとめることなどの定着を図る必要がある。

・算数科では、「除法の解答を乗法を用いて確かめる」「末尾の位が違ふ小数の加法計算」「乗数が整数で約分がある分数のかけ算」「1を超える割合を百分率で表す」ことの本答率が低い。除法の確かめの計算は乗法で行うことの意味を理解させることや小数の加法では位を揃えて計算することなど、基礎基本の学習の定着が必要とされる。また、割合では基準量と比較量の意味を理解させ百分率を求めさせることや、分数の乗法では約分の意味を理解させ確実にできるように指導していく必要がある。

【意識調査】

・国語科で「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている」「発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している」ことの割合が県や全国平均に比べると低い。目的を明確にもたせたり、相手に伝えたいことを分かりやすくまとめさせたりする必要がある。

・算数科で「公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている」「学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える」と回答した児童の割合が高い。今後も、めあてについての見通しをもたせ、自力解決に向けた活動を充実させたり、解決に向けた式の意味をしっかりと理解させたりすることを続けていきたい。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

1 共通した授業展開

全職員が日々の授業において、「めあて」「言語活動」「まとめ」「ふりかえり」を大切にした学習指導を行っていく。「めあて」に対する自分の考えを確実にノートに書かせ、考えを説明したり、伝え合ったりする場を設定する。

2 ICT利活用

タブレットや電子黒板など、ICT機器を授業に活用し、児童の興味関心を高めたり、思考を助けたりするなど、指導方法の改善や向上に努める。

3 校内研究

授業研究では、グループ学年で模擬授業を設定するなど、協働体制を構築し、教師の授業力向上をめざす。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

1 朝や放課後の時間における継続的な取り組み

- ・全学年で週に4回、朝の時間に基礎基本の学習内容の定着や集中力の育成を図るために、「花まるタイム」の時間を設定している。内容は音読、図形、計算、視写を15分間で行う。
- ・4～6年で毎朝、タブレットを使い「Syu-Chu-Train」の時間を設定し、3分間の計算問題に取り組みせる。
- ・5、6年で火曜日の放課後に「パワーアップタイム」の時間を設定し、フォローアップ問題などを活用し、計算の補充指導を行う。

2 言語活動の充実

児童全員に、詩の内容を低・中・高学年に分けてテキストを配付し、「今月の詩」として一月ごとに内容を変えて詩の暗唱に取り組みせる。

3 読書活動の推進

お話ボランティアによる読み聞かせや、学年に応じたお薦めの本の紹介など、読書の推進を図り、年間の貸出数が児童一人当たり100冊以上になることをめざす。

【山内東小学校】

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語			算数		
	5年時	6年時		5年時	6年時	
		A	B		A	B
H24 入学 現 5年	63.3 (0.96)	/	/	65.9 (0.98)	/	/
H23 入学 現 6年	58.5 (0.94)	68.8 (0.95)	45.7 (0.80)	72.5 (1.11)	76.8 (0.99)	45.6 (0.99)
H28 正答率の全国比		(0.94)	(0.79)		(0.99)	(0.97)

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は、県平均を1としての比較。

◎「H28正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【学習状況調査】

5年生

- 5年生全体では、国語・算数ともに県平均を下回っている。県が設定した「十分達成」と「おおむね達成」の到達基準で見ると、国語・算数ともに「おおむね達成」の状況にある。
- 国語を観点別にみると、全観点で県正答率を下回っている。「話す・聞く」「読む」については「要努力」の状況、「書く」「知識・理解・技能」については「おおむね達成」の状況にある。「書く」については昨年度12月調査よりやや改善の傾向にあるが、「読む」については、文章の内容をまとめる力や、要旨を捉える力をつけていく必要がある。
- 算数を観点別にみると、全観点で県正答率を下回っている。「考え方」「知識・理解」については「要努力」の状況にあり、「技能」については「おおむね達成」の状況にある。「知識・理解」については、昨年度12月調査よりやや改善の傾向にあるが、「考え方」については、昨年度12月調査同様課題が残り、示された情報を基に数量を考えたり、問題解決の方法を説明したりできる力をつけていく必要がある。

6年生

- 6年生全体では、国語・算数ともに県正答率を下回っている。県が設定した「十分達成」と「おおむね達成」の到達基準で見ると、国語・算数ともに「おおむね達成」の状況にある。国語は、昨年度4月調査正答率よりは高くなっているが、12月調査正答率からの落ち込みが見られる。算数は、昨年度4月調査正答率、12月正答率と少しずつ落ち込みが見られる。
- 国語を観点別にみると、「話す・聞く」「書く」で県正答率を上回り、「読む」「知識・理解・技能」で下回っている。「話す・聞く」「書く」「読む」については「おおむね達成」の状況にあり、「知識・理解・技能」については「要努力」の状況にある。「話す・聞く」「書く」「読む」の3観点については、昨年度4月、12月調査よりやや改善の傾向にある。「知識・理解・技能」については、漢字やローマ字の読み書き、漢字や熟語の意味や使い方、ことばのきまりなどしっかりと身につくように指導をしていく必要がある。
- 算数を観点別にみると、「技能」で県正答率を上回り、「考え方」「知識・理解」で下回っている。「技能」「知識・理解」については「おおむね達成」の状況にあるが、「考え方」については「要努力」の状況にある。「考え方」については、「おおむね達成」の昨年度4月調査から12月調査、今回と次第に落ち込みが見られるので、示された情報を基に数量を考えたり、問題解決の方法を説明したりことができるように力をつけていく必要がある。

【意識調査】

- 楽しく学校に登校し、落ち着いて学習に取り組み、友だちと楽しくあそんでいる児童、将来の夢や希望を持って、人の役に立ちたいと考える児童がほとんどである。
- 自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのが不得意と思う児童が半数以上いるので、

自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりする目的や必要性をしっかりと意識させた授業をして慣れさせていく必要がある。

- 家庭と連携し、テレビ、ゲームなどの時間が長い児童や、夜遅くまで起きている児童への生活習慣の見直しと、児童の家庭での学習時間や学習内容などの見直しをしていく必要がある。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

1 算数科・理科を中心とした校内研の推進を図り、言語活動の設定(単元の構想・集団づくり)や評価を工夫することで、思考を伴う表現を生成する授業づくり(学び合いの活性化)を目指す。

- 国語科における学習用語や学習ことばのカードの作成と、算数科、理科における見直し、言語活動の充実を図る。
- 「めあて」と「まとめ」の整合性を図り、児童の学習活動を明確にした授業実践の工夫改善を図る。
- 一単元の中に、一つでも活用力を問う課題(児童が情報共有しながら解決する場面)を取り入れ、資料や文章から必要な情報を読み取り、友だちの話聞きながら学び合える授業を仕組んでいく。

2 ICT 機器(タブレットを含む)を効果的に活用し、学習意欲や関心を高める。

- 2年生以上の国語科、算数科、理科におけるタブレット持ち帰りによるスマイル学習の積極的実施と充実を図る。
- スキルタイムや授業の終盤にタブレットでのe-ライブラリを活用し、課題の終わった児童が時間いっぱい学習に取り組める環境をつくる。

3 CRTの結果と分析による課題改善に全職員協力して取り組む。

- 各学級や学年のそれぞれの課題に対し、その実現に向けた具体的な方法を考え、全職員で共通理解し、根気強く指導、実践を行う。
- 算数科では、多くの単元の中で、等質や習熟度を加味した少人数指導を昨年度より多く実施し、個に応じたきめ細やかな指導の工夫(配慮が必要な児童への支援、スモールステップの評価と称賛、わかりやすい授業づくり等)を行う。
- 学習した知識を使えるものとして定着させるため、児童の生活や体験に根ざした活動を多く取り入れる。
- 地域ボランティアの協力を得て、4～6年生の既習事項の復習と定着を図る学習会を設ける。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

1 立腰教育を基盤とした基本的な学習習慣と生活習慣の形成

- 8時前着席完了、8時タブレットでのShu-Chu-Train開始、8時5分放送による全校『立腰タイム』の朝の流れを全児童に定着させ、凜とした1日のスタートをさせる。
- 6月に立腰集会を開き、今年のキーワードを基に具体的な実践目標について全校で共通理解し、徹底した取り組みを行う。また「挨拶・返事」についても継続指導を行い、進んで元気な挨拶や返事ができる児童を育てる。
- 小中・小中連携による山内町三校全体での協働体制作りの推進を図る。

2 週2回の「スキルタイム」と週1回の「すくすくテスト」の改善と個に応じた指導の工夫改善

- 5・6年生の「スキルタイム」では、曜日をずらし、担任と級外5・6名の指導体制を組み、習熟度別の支援を実施する。指導においては、校長・教頭を含む全職員であたる。
- 4～6年において、週2回、下校時にアップ・UP算数(数問の既習プリント)に取り組み、基礎基本の定着を図る。問題準備、丸付けを級外で支援し、児童がやる気と自信につながるような工夫をする。
- 昼休みや放課後等の時間を利用して個に応じた指導にあたり、個人差への対応を図る。

3 週2回の「朝読書」と月1回の「親子ふれあいデー週間」の充実

- 学年に応じたお薦めの本を推奨し読書への関心を高める。
- 始業前の貸出を実施し、児童の図書館利用率と個々の読書量の増加を図る。

4 家庭と連携した家庭学習習慣や家庭生活習慣の改善

- 教育相談期間や学級懇談会等で児童や保護者に家庭での学習時間、学習内容、読書時間、テレビやゲーム時間、就寝時間について目を向けさせ、自主学習の取り組みをさらに奨励していく。
- 担任と級外が協力し、長期休業中における学習会を開くことにより、家庭学習の支援をしていく。

【山内西小学校】

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語			算数		
	5年時	6年時		5年時	6年時	
		A	B		A	B
H24 入学 現 5 年	55.8 (0.84)			54.2 (0.81)		
H23 入学 現 6 年	48.1 (0.77)	69.1 (0.95)	60.3 (1.06)	54.1 (0.83)	74.6 (0.96)	47.1 (1.02)
H28 正答率の全国比		(0.95)	(1.04)		(0.96)	(1.00)

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は、県平均を1としての比較。

◎「H28 正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

<学習状況調査から読み取れる実態>

◇5年時は、国語・算数ともに、県平均を大きく下回っている。国語では、漢字を書く力や語句に関する知識の不足が顕著で、読む力にも大きな影響を与えている。児童が目的をもって楽しく学習を進めることができるような言語活動を設定し、その過程の中で言葉や考え方を身に付けていくように、授業を工夫・改善していくことが必要である。また、家庭とも連携し、正確に「話す・聞く」習慣づくりや、読書のジャンルの幅を広げたり質を高めたりして、言葉に数多く触れたり使ったりすることが必要である。算数は、考え方の基本となる基礎的な知識・理解が不足しているため、作業を通して学んだり、イメージを伴うわかりやすい言葉に置き換えたりして、学習内容をしっかり理解していくことが必要である。国語・算数ともに確かな理解の上に、繰り返して習熟していくことが大切である。

◇6年時は、国語・算数ともに、学力が向上し、全国並みになっている。特に、B問題（主として活用）の正答率が伸びているのは、日頃から学んだことを生かそうとしている結果といえる。課題としては、正解に近い解答はできていても、解答の条件を満たしていなかったり、正確に伝わらなかったりするものが多かったことがあげられる。問題をよく読んで、質問の条件をふまえて答えたり、質問に応じた適切な言葉を使って正確に答えたりすることが大切である。

<意識調査から読み取れる実態>

◇5年時は、県と比較すると将来の夢や目標をもっている児童の割合が低く、平日や休日の家庭学習時間がやや短い。また、自分で計画を立てて勉強している児童が、県が65%に対して本校は35%ほどと低い状態であり、意識調査全体から学習への意欲がある児童とそうでない児童の差が大きいといえる。図書館や図書室を利用している児童は多く、各担任が指導を継続し、図書館の利用の仕方に工夫を加えてきた結果が表れている。

◇6年時は、各教科への興味・関心・意欲が高く、家庭でも計画的に学習し、自分の成長を感じながら生活している児童が多い。5年同様、図書館や図書室を利用している児童は多かった。

◇5年時は、テレビやゲームの時間が長かったり、寝る時間や起きる時間が定まっていなかったりする児童が多い。成長期の児童にとって、健康的な生活リズムを身に付けることが、心身の成長に大切である。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

① 基礎基本の習得のための工夫

- ・国語・算数科を中心に、習熟度に応じた指導方法や指導体制の工夫・改善を行う。
- ・西部型授業の授業スタイルについて職員間で共通理解を図り、学習のめあてに応じた一貫した指導を継続する。また、児童が学習の流れをつかみ、見通しをもって学習ができるように進めていく。
- ・既習事項や各教科で使う用語を確認し、それらを使って問題解決に取り組ませる。
- ・与えられた条件を満たして考えを整理し、まとめていく活動を、学年に応じて行っていく。
- ・読書や辞書の活用、音読、話し合い等、多くの言葉を使い、習得する機会を作り、言語活動を充実させていく。

② 学ぶ意欲の向上のための工夫

- ・授業の中に、様々な学習活動（音読、視写、計算、作図、操作、辞書活用、話し合い、発表、読書等）を取り入れることで、全ての児童にとって楽しい学びがある授業づくりを行う。
- ・学び合いの機会を確保し、内容に応じた学習形態（2人で、グループで、みんなで）で行い、意欲的に学ぶことができるようにする。
- ・ICT機器を効果的に活用し、わかりやすく、児童の学習意欲を高める授業を行う。

③ 望ましい学習習慣・態度の育成の工夫

- ・立腰教育を基盤にした「学ぶ姿勢」「態度」「返事」を全職員で徹底させていく。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・朝の時間は、(月) 音読タイム、(火) やる気タイム、(木①) 漢字タイム、(木②④・金) 計算タイムを実施し、全体の基礎学力の向上を図る。
- ・朝読書や立腰タイムの推進により、学習に向かう姿勢を育てていく。
- ・朝の時間の「音読タイム」「計算タイム」「漢字タイム」の目的や実施計画を職員間で共通理解し、実施した結果を情報交換することによって、基礎的な学力が向上するように改善を加えていく。
- ・読み聞かせの時間や図書委員会の活動とも関連させて指導を行うことで、本のよさにふれさせ、図書館や図書室に足を運ぶ回数をさらに増やす。
- ・放課後30分間の「やる気タイム」は、級外による学年担当を配置し、全職員で個別学習を行い充実させる。また、学力向上強化月間（7・8月、11月、2月）では、保護者や地域の方による学習ボランティアの参加を増やすことで、児童の意欲を高めたり、個別指導が充実したりするように行う。
- ・学力向上だよりを発行して、授業の様子や児童のノートの紹介、学習用具のお願い等、学校の取り組みを紹介することで、家庭との連携をとり、家庭学習の習慣化を図るよう協力体制作りを継続していく。
- ・「学びのすすめ」や「家庭学習のてびき」を活用して学習指導を行ったり、家庭学習のヒントにさせたりすることで、自主学習の習慣化を図り、自分に応じた補充学習ができるようにする。
- ・スマイル学習を充実させ、家庭での予習の習慣化と授業での学び合いの強化・深化を図る。
- ・「生活振り返り週間」「ノーテレビデー」で家庭での学習習慣や生活習慣の実態を把握し、改善に生かしていく。
- ・学校生活の中の様々な場で、自分が感じたことや考えたこと、学んだこと、また、友達や他の方々のよいところや頑張り等を振り返る機会を意図的に作ることで、言語力を高めたり、お互いを認め合ったりする気持ちを育てていく。
- ・地域や社会への関心を高めるために、地域行事を紹介したり、参加を奨励したりするとともに、教師自ら地域行事に出向き、参加した児童を励ます。

【北方小学校】

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語			算数		
	5年時	6年時		5年時	6年時	
		A	B		A	B
H24 入学 現 5 年	63.1 (0.95)	/	/	67.1 (1.00)	/	/
H23 入学 現 6 年	60.7 (0.97)	75.6 (1.04)	56.9 (1.00)	66.3 (1.02)	79.5 (1.02)	49.3 (1.06)
H28 正答率の全国比		(1.03)	(0.98)		(1.02)	(1.04)

◎5年時は佐賀県学習状況調査，6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率，下段()は，県平均を1としての比較。

◎「H28 正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- ・5年算数，6年国語A，6年算数A・B，において，県・全国平均並み，あるいは上回る結果であった。
- ・6年国語Bにおいて，県平均並みであるが全国平均より0.02ポイント下回る結果であった。
- ・5年国語において，県平均より0.05ポイント下回る結果であった。
- ・6年国語Aで読むこと「登場人物の人物像について，複数の叙述を基にして捉える」が全国平均を0.21ポイント，言語事項「漢字を読んだり書いたりすること」「ローマ字を書いたり読んだりすること」は全国平均を0.06～0.18ポイント上回っている。また，話すこと・聞くこと「目的や意図に応じて，収集した情報を関係づけながら話し合う」が全国平均より0.11ポイント下回った。
- ・6年国語Bでは，書くこと「活動報告文に応じてグラフを基に，自分の考えを書く」が県・全国平均と比較して0.21ポイント下回った。
- ・算数B「数と計算」「数量関係」で県・全国平均と比較して0.04～0.07ポイント上回った。「図形を構成する角の大きさを基に，四角形を並べてできる形を判断することができる」が0.33ポイント下回った。
- ・「学級やグループの中で自分たちで課題を立てて，その解決に向けて情報を集め，話し合いながら整理して，発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思うか」「授業の中で目標（目当て・ねらい）が示されていたと思うか」「授業の最後に学習内容をふりかえる活動をよく行っていたと思うか」について県・全国平均を大きく上回っている。全職員で西部型授業を推進してきた結果と考える。
- ・「家で，学校の授業の予習をしているか」「家で，学校の授業の復習をしているか」が県・全国平均を下回っている。
- ・「読書は好きか」が県・全国平均を大きく上回っている。26年度と比較しても大きく上回っている。「学校の授業以外に，普段（月～金曜日），1日あたりどれくらいの時間，読書をしているか」「昼休みや放課後，学校が休みの日に本を読んだり，借りたりするために学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行くか」についても県・全国を大きく上回っている。
- ・「今住んでいる行事に参加している」が県・全国平均を上回っている。しかし，26年度と比較して少しずつ低下している。
- ・「学校のきまりを守っているか」が県・全国平均を下回っている。また26年度と比較して少しずつ低下している。

2 改善に向けた具体的な取組

(1)授業づくり, 指導方法の改善・充実のための重点取組

1 自分の考えを表現する授業の実践

- ・校内研等を実施することで西部型授業を基本として、めあてと振り返りを意識し、授業児童の主体性を大切に授業をさらに実践していく。
- ・ノートの書き方を、学年や教科の特性に合わせ、統一した書き方について全職員で共通理解し、指導を行う。
- ・ICT機器を活用した授業研究会を実施し、低・中・高学年での協働学習の在り方や留意点について共通理解し、子ども同士が学び合う授業を実践をする。
- ・教師・児童共に学習用語の活用を意識した授業の実践をする。

2 授業方法の転換

- ・職員研修で、知識、技能の習得と活用、探求に区別した授業を徹底していくことを共通理解する。
- ・毎時間の授業への集中と関心を高める指導の工夫を行なう。
- ・個に対応した指導ができるようTT・少人数指導について時間割を見直す。

3 教師の授業力向上のための高め合う授業づくり

- ・ICT機器活用の研修会の実施

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

1 朝の時間の活用

- ・タブレット端末を活用したシュートタイム(計算・記憶・音読等)の実施する。
- ・漢字検定, 計算検定, 条件作文, すくすくシート等を活用したステップタイムの実施し, 基礎基本の定着を図る。

2 家庭学習の習慣化

- ・学びのしおりを活用したり, 家庭との連携を図ったりすることで, 家庭学習の習慣化を図る。

3 反復学習, 練習の強化

- ・過去問題等を活用した学力向上タイムの実施(4年生以上, 月1回程度)し, 活用力の定着を図る。
- ・学年に応じた学習の未定着の児童を対象にした学習会を実施する。(週3回程度)